

都立高校入試における英語スピーキングテスト導入見直しを求める意見書

東京都教育委員会は、2022年11月27日に、都内公立中学校3年生の全生徒(約8万人)を対象に「中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)」の実施を計画している。テストは受験者が専用のタブレット端末に解答音声を録音し、6段階で到達度を評価。テスト結果は2023年度の都立高校入試で総合得点に20点満点で加算して活用する方針である。

しかし、スピーキングテストの導入については、教育関係者、保護者、専門家から以下のような懸念が出されている。

1点目は、公平性への疑問である。客観的な採点が難しいテストだけに、採点の公平性と正確性への不安、また、不受験者については学力検査を参考にスピーキングテストの点数を算出するとしていることが挙げられる。

2点目は、点数の配分などへの理解や納得が得られていないことである。100点満点のスコアを6段階の「グレード」に分ける換算方法や、スピーキングテストの点数が入試全体の点数へ占める割合が大きすぎることへの疑問が払拭されていない。

さらに、吃音や難聴などがある生徒への配慮が適切になされるのか、コロナ禍で苦勞してきた中3の子どもたちにさらなる負担を増やすのか、などの声があがっており、4月にはスピーキングテスト中止を求めるオンライン署名9392名が市民団体から東京都教育委員会に提出された。こうした声を受け止め、拙速に導入するのはやめるべきである。

よって町田市議会は、東京都及び東京都教育委員会に対して、都立高校入試への英語スピーキングテストの導入見直しを強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。